

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-246637

(P2012-246637A)

(43) 公開日 平成24年12月13日 (2012. 12. 13)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
E O 4 B 2/74 (2006.01)	E O 4 B 2/74 5 3 1 U	
E O 4 B 2/72 (2006.01)	E O 4 B 2/72 H	
A 4 7 B 17/04 (2006.01)	E O 4 B 2/74 5 4 1 H	
	E O 4 B 2/74 5 4 1 K	
	E O 4 B 2/74 5 6 1 H	
審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2011-117505 (P2011-117505)	(71) 出願人	000000561
(22) 出願日	平成23年5月26日 (2011. 5. 26)		株式会社岡村製作所
			神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号
		(74) 代理人	100060759
			弁理士 竹沢 莊一
		(74) 代理人	100087893
			弁理士 中馬 典嗣
		(74) 代理人	100086726
			弁理士 森 浩之
		(72) 発明者	岸 一晃
			神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
			株式会社岡村製作所内
		(72) 発明者	黒江 真行
			神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
			株式会社岡村製作所内

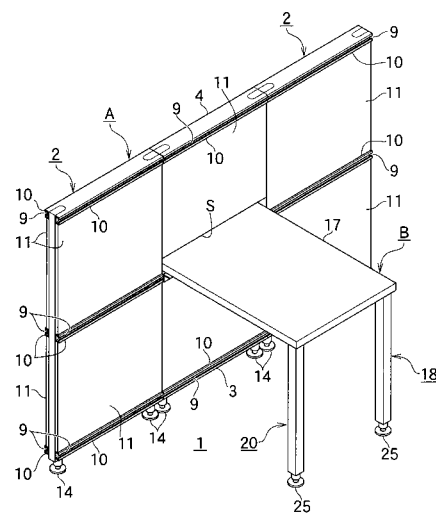
(54) 【発明の名称】 間仕切パネル装置、およびそれを有するワークステーション装置

(57) 【要約】

【課題】 間仕切パネルによって仕切られた前後の空間間における配線その他のものの挿通を可能とするとともに、十分な強度を維持することができ、しかも簡単に組み立てることができるようにした間仕切パネル装置、およびそれを有するワークステーション装置を提供する。

【解決手段】 間仕切パネル装置Aを、床面1上に立設した左右1対の標準間仕切パネル2と、両標準間仕切パネル2の下部間に架設した、それより低寸の下部パネル3と、下部パネル3の上方に、前後方向に挿通する空間Sを形成するようにして、両標準間仕切パネル2の上部間に架設した上部パネル4とを備えるものとし、上記空間Sに、テーブル装置Bにおける作業用の天板17の一部を挿入しうるようにする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

床面上に立設した左右 1 対の支持体と、
前記両支持体の下部間に架設した、前記両支持体より低寸の下部パネルと、
前記下部パネルの上方に、前後方向に挿通する空間を形成するようにして、前記両支持体の上部間に架設した上部パネル
とを備えることを特徴とする間仕切パネル装置。

【請求項 2】

左右の支持体のいずれか一方または両方を間仕切パネルとし、この間仕切パネルと下部パネルおよび上部パネルとを、それぞれ方形の枠体を備えるものとし、前記下部パネルおよび上部パネルの枠体と、前記間仕切パネルの枠体とを、結合手段をもって互いに結合したことを特徴とする請求項 1 記載の間仕切パネル装置。

10

【請求項 3】

左右の支持体のいずれか一方または両方を支柱とし、かつ前記下部パネルと上部パネルとを、それぞれ方形の枠体を備えるものとし、前記下部パネルおよび上部パネルの枠体と、前記支柱とを、結合手段をもって互いに結合したことを特徴とする請求項 1 記載の間仕切パネル装置。

【請求項 4】

請求項 1～3 のいずれかに記載の間仕切パネル装置と、
前記間仕切パネル装置における下部パネルと上部パネルとの間の空間内に一部が配設され、かつ他部が前記下部パネルおよび上部パネルより前後方向に突出して、上面が作業面をなす天板と、
前記天板を支持する天板支持手段
とを備えることを特徴とするワークステーション装置。

20

【請求項 5】

天板支持手段を、下端が接床し、かつ上端をもって天板の他部を支承する脚を備えるものとした請求項 4 記載のワークステーション装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

30

本発明は、オフィス等の執務空間を仕切る間仕切装置、およびそれを有するワークステーション装置に関する。

【背景技術】**【0002】**

オフィス等の執務空間に配設することにより、執務空間を複数に区分するようにした間仕切パネル装置、およびこの間仕切パネル装置に作業用の天板を取付けることにより、一人または複数人用の作業空間を、他の執務空間と区分するようにしたワークステーション装置は公知である(例えば特許文献 1～3 参照)。

【先行技術文献】**【特許文献】**

40

【0003】

【特許文献 1】特開 2003-184210 号公報

【特許文献 2】特開 2003-166302 号公報

【特許文献 3】特開 2009-261821 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかし、上述のような従来の間仕切パネル装置においては、机の天板上に載置した電気機器の配線等を、左右方向に並べて連結した複数の間仕切パネルによって仕切られた前後の空間に跨って通したい場合、上記配線を、一旦床面まで垂下させて、床面と間仕切パネ

50

ルの下端との間に形成した空間に通さなければならず、その配線作業が面倒である。

【0005】

また、図5に示すように、長さLが一定(一般的には90cm)に定められた複数の標準の間仕切パネル50を、左右方向に直線状に並べて連結するとともに、そのうちの1個おきの接合部51から、前方に向けた同じ標準の間仕切パネル52を、その幅Wの中心が接合部51と一致するようにしてT字状に結合することにより、2個の直線状に連続する間仕切パネル50、50と、その両側部から前方を向く左右1対の間仕切パネル52、52とをもって平面視コ字状の囲いを形成し、その内側を作業空間53とし、例えば、標準の長さL(一般的には90cm)の2個の作業用天板54、54を、図5に示すように、前方を向く左右1対の間仕切パネル52、52の内側面に沿うように配設したり、図6に示すように、直線状に並べた2個の間仕切パネル50、50に沿うように配設したりして、レイアウト変更可能として使用したい場合がある。

10

【0006】

しかし、実際には、図6に示すレイアウトでは、左右方向に直線状に並べた2個の作業用天板54、54の両側端部が、前方を向く左右の間仕切パネル52、52と干渉し(図6の破線部分参照)、このようなレイアウト変更はできない。

このような現象は、複数の間仕切パネルを、L字状、T字状、または十字状等に連結する際の連結の仕方によって生じるものであり、従来は、それに対応するため、標準寸法と異なる寸法の間仕切パネルや作業用天板を用意したり、間仕切パネルのコーナー部に、間仕切パネルの幅Wと同一幅の支柱を配設したりしているが、いずれも商品の在庫管理や施工作業が繁雑となっている。

20

【0007】

本発明は、従来の技術が有する上記のような問題点に鑑みてなされたもので、間仕切パネルによって仕切られた前後の空間間における配線その他のものの挿通を可能とするとともに、十分な強度を維持することができ、しかも簡単に組み立てることができるようにした間仕切パネル装置、およびそれを有することによって、作業用天板等のレイアウト変更の許容度を大としようとしたワークステーション装置を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明によると、上記課題は、次のようにして解決される。

30

(1) 間仕切パネル装置において、床面上に立設した左右1対の支持体と、前記両支持体の下部間に架設した、前記両支持体より低寸の下部パネルと、前記下部パネルの上方に、前後方向に挿通する空間を形成するようにして、前記両支持体の上部間に架設した上部パネルとを備えるものとする。

【0009】

このような構成とすると、下部パネルと上部パネルとが左右1対の支持体間にそれぞれ架設されているので、間仕切パネル装置全体の強度を低下させることなく、下部パネルと上部パネルとの間に空間を形成することができ、この空間に、テーブルの天板や天板上に載置した電気機器の配線等を挿通させることができる。

40

したがって、電気機器の配線等を、一旦床面まで垂下させて、床面と間仕切パネルの下端との間に形成した空間に通す必要がなくなる。

【0010】

(2) 上記(1)項において、左右の支持体のいずれか一方または両方を間仕切パネルとし、この間仕切パネルと下部パネルおよび上部パネルとを、それぞれ方形の枠体を備えるものとし、前記下部パネルおよび上部パネルの枠体と、前記間仕切パネルの枠体とを、結合手段をもって互いに結合する。

【0011】

このような構成とすると、下部パネルと上部パネルとは、隣接する間仕切パネルに簡単かつ強固に結合され、間仕切パネル装置全体の強度を高めることができるとともに、組立

50

作業性を向上させることができる。

【0012】

(3) 上記(1)項において、左右の支持体のいずれか一方または両方を支柱とし、かつ前記下部パネルと上部パネルとを、それぞれ方形の枠体を備えるものとし、前記下部パネルおよび上部パネルの枠体と、前記支柱とを、結合手段をもって互いに結合する。

【0013】

このような構成とすると、一端または両端が他の間仕切パネルに連結されない間仕切パネルにおいても、上下方向の中間部に空間を形成することができ、そこにテーブルの天板や天板上に載置した電気機器の配線等を挿通させることができる。

また、下部パネルと上部パネルとは、隣接する支柱に簡単かつ強固に結合され、間仕切パネル装置全体の強度を高めることができるとともに、組立作業性を向上させることができる。

【0014】

(4) ワークステーション装置において、上記(1)～(3)項のいずれかに記載の間仕切パネル装置と、前記間仕切パネル装置における下部パネルと上部パネルとの間の空間内に一部が配設され、かつ他部が前記下部パネルおよび上部パネルより前後方向に突出して、上面が作業面をなす天板と、前記天板を支持する天板支持手段とを備えるものとする。

【0015】

このような構成とすると、作業用の天板の一部を、下部パネルと上部パネルとの間の空間内に配設することによって、天板のレイアウト変更の許容度を大とすることができる。

【0016】

(5) 上記(4)項において、天板支持手段を、下端が接床し、かつ上端をもって天板の他部を支承する脚を備えるものとする。

【0017】

このような構成とすると、天板を、間仕切パネル装置と脚とによって、安定よく支持することができる。

【発明の効果】

【0018】

本発明によると、間仕切パネルによって仕切られた前後の空間間における配線その他のものの挿通を可能とするとともに、十分な強度を維持することができ、しかも簡単に組み立てることができるようにした間仕切パネル装置、およびそれを有することによって、作業用天板等のレイアウト変更の許容度を大としうるようにしたワークステーション装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】本発明のワークステーション装置の第1の実施形態における一部の斜視図である。

【図2】同じく、分解斜視図である。

【図3】本発明のワークステーション装置の第2の実施形態における一部の斜視図である。

【図4】同じく、分解斜視図である。

【図5】従来のワークステーション装置を模式的に示す平面図である。

【図6】同じく、レイアウト変更したときの状態を模式的に示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0020】

以下、本発明の実施形態を、添付図面に基づいて説明する。

図1および図2は、本発明のワークステーション装置の第1の実施形態の一部を示す。

このワークステーション装置は、間仕切パネル装置Aと、テーブル装置Bとを備えている。

【0021】

10

20

30

40

50

間仕切パネル装置 A は、複数の間仕切パネルを結合することにより、床面上に平面視 L 字状、コ字状、H 字状等に立設され、室内を区画するものであるが、図 1 は、その一部の直線部分のみを示したものである。

図 1 に示す部分において、間仕切パネル装置 A は、床面 1 上に立設した左右 1 対の支持体としての標準間仕切パネル 2、2 と、両標準間仕切パネル 2、2 の下部間に架設した、標準間仕切パネル 2 より低寸の下部パネル 3 と、下部パネル 3 の上方に、前後方向に挿通する空間 S を形成するようにして、両標準間仕切パネル 2、2 の上部間に架設した上部パネル 4 とを備えている。

【0022】

図 2 に示すように、標準間仕切パネル 2、下部パネル 3、および上部パネル 4 は、それぞれ方形の枠体 5 を備えている。

各枠体 5 は、左右 1 対の縦杆 6、6 の上端部同士、および下端部同士を、左右方向を向く上下 1 対の横杆 7、7 をもって連結したものよりなっている。

【0023】

標準間仕切パネル 2 における枠体 5 の上下方向の中間部には、左右方向を向く中間部連結杆 8 が、左右の縦杆 6、6 間に架設されている。

標準間仕切パネル 2 における上下の横杆 7、7 と中間部の補強杆 8 との前後両面には、前後外向きの開口部より奥部が上下に拡開する長手方向を向くあり溝状の係合溝 9 が設けられた左右方向を向くレール部 10、10 が、上下の横杆 7、7 と中間部の補強杆 8 との前後両面より前後に突出し、かつ両側端が各縦杆 6 の前後面に沿って、各縦杆 6 の外側端まで至るようにして形成されている。

【0024】

上段のレール部 10 と中間のレール部 10 との間、および中間のレール部 10 と下段のレール部 10 との間における枠体 5 の各縦杆 6 の前後両面には、化粧パネル 11 の背面における左右の端部に設けた下向き鉤形の上下 1 対のフック 12、12 を係止するための係合孔 13、13 がそれぞれ設けられている。

【0025】

各化粧パネル 11 は、これらのフック 12、12 を係合孔 13、13 に係止することにより、上段のレール部 10 と中間のレール部 10 との間、および中間のレール部 10 と下段のレール部 10 との間において、表面が各レール部 10 の表面と同一面をなすようにして、枠体 5 に着脱自在に装着されている。

各化粧パネル 11 の左右方向の寸法は、枠体 5 の左右方向の寸法と同一としてある。

【0026】

枠体 5 の下方の横杆 7 の下面における左右両側部には、床面 1 の不陸調整用のアジャスタボルト 14、14 が設けられている。

【0027】

下部パネル 3 における枠体 5 の上下寸法は、標準間仕切パネル 2 における下方の横杆 7 の下面から中間部連結杆 8 の上面までの寸法と同一としてあり、この枠体 5 における上下の横杆 7、7 の前後両面には、標準間仕切パネル 2 におけるのと同様のレール部 10、10 が、同様にして形成されている。

【0028】

また、下部パネル 3 の枠体 5 における各縦杆 6 の前後両面には、標準間仕切パネル 2 におけるのと同様の上下 1 対の係合孔 13、13 がそれぞれ設けられており、この係合孔 13、13 に、化粧パネル 11 の背面における左右の端部に設けた下向き鉤形の上下 1 対のフック 12、12 を係止することにより、化粧パネル 11 は、その表面が各レール部 10 の表面と同一面をなすようにして、上下のレール部 10、10 間において、枠体 5 に着脱自在に装着されている。

【0029】

下部パネル 3 の枠体 5 における下方の横杆 7 の下面には、標準間仕切パネル 2 におけるのと同様の左右 1 対のアジャスタボルト 14、14 が設けられている。

【0030】

上部パネル4における枠体5の上下寸法は、標準間仕切パネル2における上方の横杆7の上面から中間部連結杆8の上面までの寸法より小としてあり、この枠体5における上方の横杆7のみの前後両面には、標準間仕切パネル2におけるのと同様のレール部10、10が、同様に形成されており、下方の横杆7には、レール部10は形成されていない。

【0031】

上部パネル4の枠体5における各縦杆6の前後両面には、標準間仕切パネル2におけるのと同様の上下1対の係合孔13、13がそれぞれ設けられており、この係合孔13、13に、化粧パネル11の背面における左右の端部に設けた下向き鉤形の上下1対のフック12、12を係止することにより、化粧パネル11は、その表面がレール部10の表面と同一面をなすようにして、上方のレール部10の下方において、枠体5に着脱自在に装着されている。

10

上部パネル4の枠体5に装着した化粧パネル11の下端は、この枠体5における下方の横杆7の下面と整合するようにしておくのが好ましい。

【0032】

下部パネル3および上部パネル4の各枠体5と、支持体である左右の標準間仕切パネル2の枠体5とは、それらの互いに対向する縦杆6、6同士を互いに突き合わせて、両縦杆6、6同士を貫通する、結合手段である上下1対のボルト15、15と、ナット16、16とをもって締着することにより、互いに左右方向に一直線状に並ぶようにして結合されている。

20

【0033】

上記のように、上部パネル4における枠体5の上下寸法は、標準間仕切パネル2における上方の横杆7の上面から中間部連結杆8の上面までの寸法より小としてあり、上部パネル4の上端面と標準間仕切パネル2の上端面とが整合するようにして、上部パネル4を左右の標準間仕切パネル2に結合することにより、上部パネル4と、その下方の下部パネル3との間に、前後方向に挿通する空間Sが形成される。

【0034】

この空間Sに、後述するテーブル装置Bにおける天板17や、その上に載置した電気機器の配線(図示略)等を通すことができ、天板17のレイアウト変更の許容度を大とすることができ、かつ上表面が作業面をなす天板17と、この天板17を支持する天板支持手段18とを備えている。

30

また、下部パネル3および上部パネル4の各枠体5と、左右の標準間仕切パネル2の枠体5とは、ボルト15とナット16とをもって強固に結合されているので、間仕切パネル装置A全体の強度を低下させることなく、下部パネル3と上部パネル4との間に空間Sを形成することができる。

【0035】

テーブル装置Bは、下部パネル3と上部パネル4との間の空間S内に後部が配設され、かつ上面が作業面をなす天板17と、この天板17を支持する天板支持手段18とを備えている。

40

【0036】

天板17の厚さは、空間Sの上下寸法とほぼ同一としてもよいが、それより小として、天板17上の配線その他のものも空間Sに挿通しうるようにするのがよい。

また、天板17の左右方向の幅は、空間Sの左右方向の幅とほぼ同一か、またはそれより小とされている。

【0037】

天板支持手段18は、後部支持手段19と前部支持手段20とからなっている。

後部支持手段19は、水平片21aと垂直片21bとからなる左右方向を向くアングル材からなるブラケット21と、下部パネル3の前面における上方のレール部10の係合溝9の奥部に、前方に離脱不能として嵌合された左右1対の板ナット22、22と、ブラケ

50

ット 2 1 の垂直片 2 1 b の両側部を前後方向に貫通するとともに、下部パネル 3 における上記レール部 1 0 の係合溝 9 の開口部を通して、後端部が各板ナット 2 2 のねじ孔 2 2 a に螺合することにより、垂直片 2 1 b を上記レール部 1 0 の前面に固着するようにした左右 1 対のボルト 2 3、2 3 と、ブラケット 2 1 の水平片 2 1 a を天板 1 7 の後部下面に圧接した状態で止着する左右 1 対の止めねじ 2 4、2 4 とからなっている。

【0038】

前部支持手段 2 0 は、下端に設けた不陸調整用のアジャスタボルト 2 5 をもって接床し、かつ上端に設けた水平の取付板(図示略)を、天板 1 7 の前部下面に止めねじ(図示略)等をもつて固着することにより、天板 1 7 の前部を支承するようにした左右 1 対の脚 2 7、2 7 を備えている。

【0039】

このように、作業用の天板 1 7 の一部を、下部パネル 3 と上部パネル 4 との間の空間 S 内に配設することによって、天板 1 7 のレイアウト変更の許容度を大とすることができる。

【0040】

また、後部支持手段 1 9 と前部支持手段 2 0 ともつて、天板 1 7 を、安定よく支持することができる。

【0041】

図 1 および図 2 に示す本発明のワークステーション装置の第 1 の実施形態においては、下部パネル 3 および上部パネル 4 の両側部を支持する支持体を、ともに標準間仕切パネル 2 としてあるが、図 3 および図 4 は、一方の支持体を支柱とした、本発明のワークステーション装置の第 2 の実施形態の一部を示す。

なお、第 2 の実施形態において、第 1 の実施形態におけるのと同じまたは類似の部材には、同一の符号をもつて図示するに止め、それらについての詳細な説明は省略する。

【0042】

図 3 および図 4 に示すように、支持体である支柱 2 8 は、角管状をなし、下端に設けた不陸調整用のアジャスタボルト 2 9 をもつて接床し、床面 1 上に立設されている。

【0043】

下部パネル 3 および上部パネル 4 の各枠体 5 と、支持体である支柱 2 8 とは、各枠体 5 の一方の縦杆 6 を支柱 2 8 の側面に当接させて、各縦杆 6 と支柱 2 8 とを左右方向に貫通する、結合手段である上下 1 対のボルト 1 5、1 5 と、ナット 1 6、1 6 とをもつて締着することにより、互いに結合されている。

【0044】

支柱 2 8 の上端には、上部カバー 3 0、支柱 2 8 の外側面には、側部カバー 3 1 が、それぞれ着脱自在に装着されている。

【0045】

第 2 の実施形態のような構成とすると、一端が他の間仕切パネルに連結されない間仕切パネルにおいても、上下方向の中間部に空間 S を形成することができ、そこにテーブル装置 B の天板 1 7 や天板 1 7 上に載置した電気機器の配線(図示略)等を挿通させることができる。

また、下部パネル 3 と上部パネル 4 とは、隣接する支柱 2 8 に簡単かつ強固に結合され、間仕切パネル装置 A 全体の強度を高めることができるとともに、組立作業性を向上させることができる。

【0046】

第 2 の実施形態においては、下部パネル 3 および上部パネル 4 の一方の側端を支持する支持体を支柱 2 8 とし、同じく他方の側端を支持する支持体を標準間仕切パネル 2 としてあるが、両側の支持体を、ともに支柱 2 8 とすることもできる。

【0047】

さらに、図 5 および図 6 に示す従来の例において、前方を向く左右 1 対の間仕切パネル 5 2、5 2 を、本発明の間仕切パネル装置のように、上下方向の中間部に、作業用天板 5

10

20

30

40

50

4の一部を配設しうる空間Sを設けたものとすることによって、図6に破線で示す2個の作業用天板54、54の両側端部を、この空間Sに配設し、両作業用天板54、54を、間仕切パネル50、50に沿わせて直線状に並べて配設するレイアウトが可能となる。

【0048】

本発明は、上記実施形態のみに限定されるものではなく、特許請求の範囲を逸脱することなく、例えば、次のような幾多の変形した態様での実施が可能である。

(1) 後部支持手段19を省略し、天板17の前後方向の中間部を空間Sに挿通し、天板17の前後の端部に、左右1対の脚27、27をそれぞれ設ける。

(2) 左右1対の脚27、27に代えて、天板17の左右方向の中央部に1本の脚27を設ける。

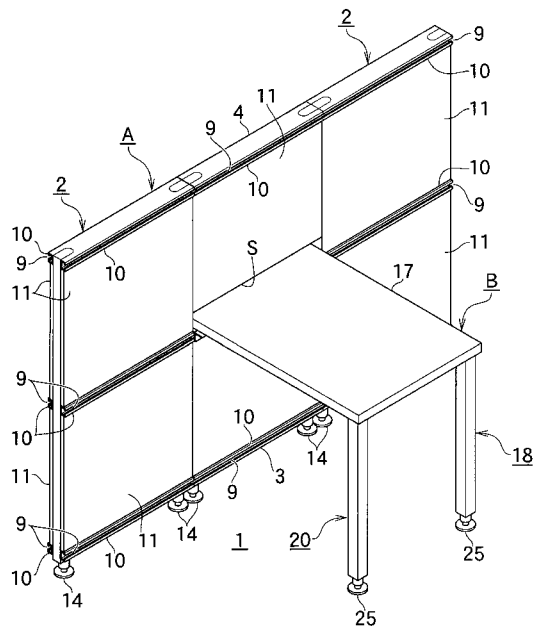
10

【符号の説明】

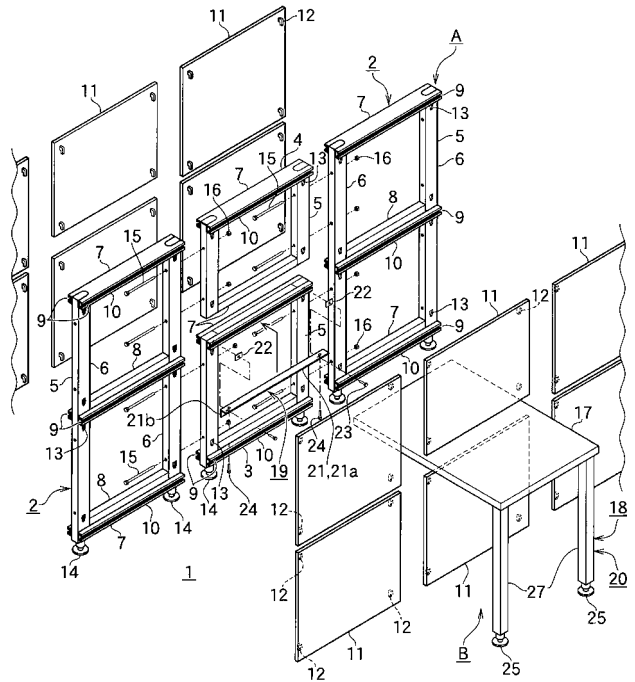
【0049】

A	間仕切パネル装置	
B	テーブル装置	
S	空間	
1	床面	
2	標準間仕切パネル(支持体)	
3	下部パネル	
4	上部パネル	
5	枠体	20
6	縦杆	
7	横杆	
8	中間部連結杆	
9	係合溝	
10	レール部	
11	化粧パネル	
12	フック	
13	係合孔	
14	アジャスタボルト	
15	ボルト(結合手段)	30
16	ナット(結合手段)	
17	天板	
18	天板支持手段	
19	後部支持手段	
20	前部支持手段	
21	ブラケット	
21a	水平片	
21b	垂直片	
22	板ナット	
23	ボルト	40
24	止めねじ	
25	アジャスタボルト	
27	脚	
28	支柱(支持体)	
29	アジャスタボルト	
30	上部カバー	
31	側部カバー	

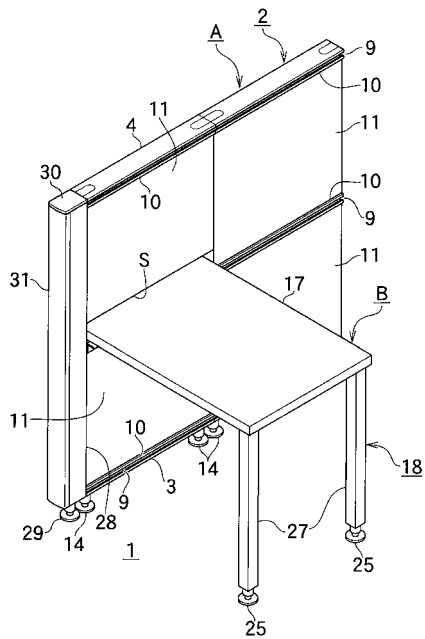
【図 1】



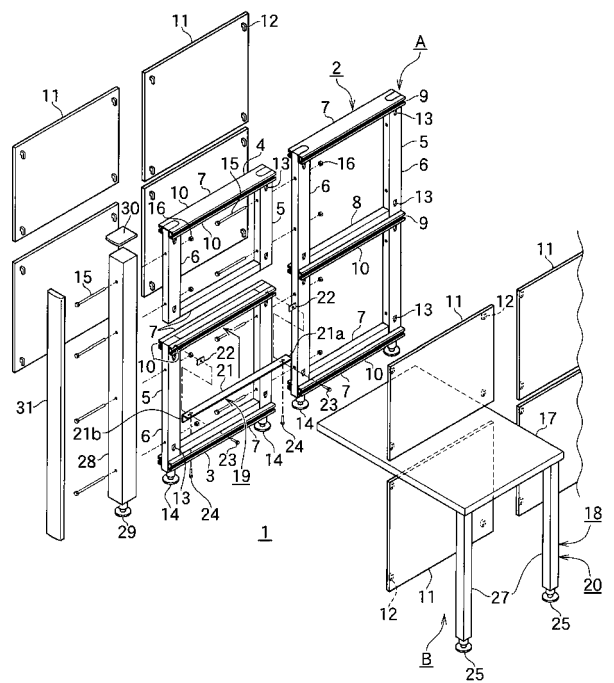
【図 2】



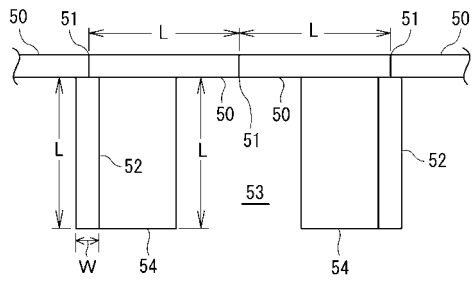
【図 3】



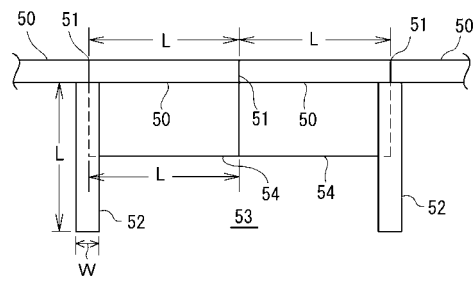
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.

F I

テーマコード (参考)

E 0 4 B 2/74 5 2 1 M

A 4 7 B 17/04